

京都信用金庫殿と T K C 近畿京滋会との勉強会 (Web)

令和2年8月24日(月) 17:00~19:00

T K C 会員・職員 31 名、京都信用金庫殿 15 名が、Web 参加して開催されました。榎田隆之理事長の講演後、参加者のうち 40 名が 10 グループに分かれてディスカッション「コロナ禍における中小企業の支援について～我々がすべきこと～」を行っています。



京都信用金庫 榎田隆之理事長



京都信用金庫 竹口尚樹常務理事

先生方と開始した連携関係は、コロナ終息を待っているわけにはいきません。T K C 会員と京都信金が手を取りあって地域中小企業を支援していきたいです。

資金繰り支援の第2波も一定の割合で出てきます。この時期に「今、何をすべきか」考えていく機会が必要かと思えます。

「絆」ローンは「モニタリング」と「本業支援」が2本柱。全ての中小企業の財務データをM I Sで、タイムリーに毎月いただきたい。特にコロナの影響を受けている顧客ほど早く認識し、早く支援する必要があるので、月次が大切です。

経営革新(本業支援)をサポートする「アフターコロナ推進プロジェクト」は、財務支援+①ビジネスマッチング、②事業承継・M & A、③人材紹介、④Community building です。

「人と人との関係性」がこれまで以上に大切になります。お客様に寄り添う姿勢と、先生方との連携で、お客様に一番近い金融機関を目指します。

「事業継続のためのヒヤリングシート」を作成しています。厳しい環境ですが、地域の事業者に寄り添い、対話をして、様々な支援を展開していきます。

今後、プロパーでリスクを取り融資をするかどうか判断する時期が来ると考えます。事業者、京都信金、T K C 会員と三位一体で、事業改善(本業支援)、融資の是非などを一緒に検討していきたいです。

事業者のために本気で取り組む先生方と、今後も勉強会の回数を重ねていきたいです。モニタリング情報サービスは、厳しい環境で最適な資金繰り支援をするために、とても有効なサービスです。ただ、思うほど出ていない。もっともっと利用してほしい。



T K C 近畿京滋会 佐藤正行会長



グループディスカッション 「コロナ禍における中小企業の支援について」 ~我々がすべきこと~



全10グループより グループディスカッション 結果発表

